2021 年度第 4 回・2022 年第 1 回合同評議員会議事概要

日時：2022 年 4 月 2 日（土） 13：00−15：15
場所：Zoom によるオンライン会議
出席者※：Zoom 会議
足立伸一[a,b], 井上豪[a,b], 植草秀裕（編集幹事）[b], 海野昌喜[a], 岡崎伸生（情報幹事）[a,b], 尾関智二[a], 上村みどり[a,b], 神山 崇（監査役）[a,b], 河野正規[b], 小島優子[a,b], 小松一生（会計幹事）[b], 清水敏之[a,b], 菅原洋子（監査役）[b], 杉本邦久[b], 千田俊哉[a,b], 千田美紀[a,b], 玉田太郎[a], 藤間祥子[a,b], 中川敦史（次期会長候補）[b], 南後恵理子[b], 西堀英治[a,b], 禾 晃和（庶務幹事）[b], 橋爪大輔（行事幹事）[b], 橋本博[a],平田邦生[a,b], 松村浩由[a], 三木邦夫[a], 宮原郁子[a,b], 森茂生（広報幹事）, 森吉千佳子（男女共同参画幹事）[a,b], 姚 閔[a,b], 山縣ゆり子[a,b], 山本雅貴[a,b], 吉朝 朗[a], 和田 啓[a,b]
委任状出席者※： 五十嵐教之[b], 熊坂 崇[a], 栗栖源嗣[a,b]
欠席者※：杉山和正[a,b], 関根あき子[a,b], 樋口芳樹[a,b]
オブザーバー：中塚晃彦（次期幹事候補）, 濵田麻希（次期幹事候補）, 山田悠介（次期幹事候補）
議長：山縣ゆり子[a]（2021 年度会長）
議事録作成者：海野昌喜[a]
※2021 年度第 4 回評議員会（定数 30，構成員は[a]で表記）：出席 25，委任状出席 2
2022 年度第 1 回評議員会（定数 30，構成員は[b]で表記）：出席 27，委任状出席 2
（五十音順）

上記のとおり定足数に足る評議員の出席があったので 、議長は定刻に開会を宣し、下記のとおり議事に入った。また、議事録署名人として禾庶務幹事が選出された。

議事

Zoom 会議にて開催し、音声に問題なく議事進行に支障がないことを確認した。報告、審議に先立ち、2021 年度会長挨拶ならびに 2022 年度会長候補挨拶が行われた。その後、新監査役および新幹事の候補者、新評議員、各委員会委員候補者の紹介が行われた。

報告事項

1 幹事報告

1.1庶務幹事報告（禾庶務幹事）

2021 年 11 月 5 日から 2022 年 3 月 18 日までの会員の異動状況が報告された。2022 年 3 月 18 日現在，会員数が 1064（個人会員 1044 名、賛助会員 20 社）である。学会共催等依頼について、協賛依頼 3 件、後援依頼 1 件が報告された。

1.2会計幹事報告（小松会計幹事）

一般社団法人としての 2021 年度決算（2021 年 2 月 1 日～2022 年 1 月 31 日）が報告され、監査報告書も同時に提示された（別表参照）。単年度収支として，1,918,628 円の黒字と

なったことが報告された。会議費・編集会議費の支出が 0 だったことと札幌年会の黒字額（1,017,179 円）が大きかったことが報告された。また、第 3 回評議員会で承認された 2022 年度予算については、会議費・編集会議費の一定程度の支出が見込まれることの説明があった。さらに、WEB 選挙の導入に伴う初期導入費を含み、選挙費として 700,000 円の予算を組んでいる説明がなされた。特別会計の国際会議口については、国際会議の招致を見据えた積み立てを開始する時期に来ており議論を始めていることおよび本件は次期幹事会（2022-2023 年度幹事会）に引き継がれる旨の報告があった。リガクファンド口に関しては、AsCA2022 への参加助成に使用する予定や対称性講座の支出、年会でのポスター懸賞費に使用している旨が報告された。

1.3編集幹事報告（植草編集幹事）

会誌の発行状況が報告されるとともに、今後の企画について報告された。

1.4行事幹事報告（橋爪行事幹事）

講習会「第 10 回対称性・群論トレーニングコース」（2022 年 8 月 22-26 日、高エネルギー加速器研究機構つくばキャンパス）の開催計画について報告された。COVID-19 の影響によって日本語による基礎講座のみの開催となる旨の説明がされた。

2022 年度の日本結晶学会年会（2022 年 11 月 26-27 日、関西学院大学、西宮上ヶ原キャンパス）の開催計画について報告された。今年は「持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD2022)」であるため、年会でも SDGs に関連したシンポジウムを計画している旨が説明された。

2023 年度の日本結晶学会年会（2023 年 11 月、山口大学常盤キャンパス（予定））の開催計画が報告された。2 日間で行うか 2.5 日間で行うかを検討している旨の報告がされた。

2024 年度の日本結晶学会年会（2024 年 11 月 8-10 日、名古屋大学東山キャンパス）開催計画が報告された。

オンライン講演会「CrSJ Keynotes」の企画について、趣旨や現在決まっている講師について報告された。

1.5情報幹事報告（岡崎情報幹事が欠席のため禾庶務幹事が代理で報告）

日本結晶学会ホームページの更新・閲覧状況について報告された。従来と大きな変化はないが、ドライシッパーの適正使用について、一定数の閲覧があった旨が報告された。

1.6広報幹事報告（森広報幹事）

会員へのメール配信および IUCr Newsletter への投稿実績について報告された。

1.7男女共同参画推進幹事報告（森吉男女共同参画推進幹事）

2021年度年会で「結晶学分野の若手研究者の見つけ方・育て方のヒント～2019年度金沢年会でのアンケートを引用しながら～」の音声付きのパワーポイントを作成し流したことが報告された。本件について、PDF化しパスワードを付けた資料を会員限定でダウンロードできるようにしてよいかを議論した。2019年度の玉田男女共同参画推進幹事から、「アンケートは公表を前提としていなかった」旨の説明があり、利点以外に問題点も想定されるため、公表の可否については継続審議することになった。

男女共同参画学協会連絡会の定時総会や運営委員会への参加状況に関して報告された。また、連絡会から届くアンケートや内閣府からの連絡等を会員に配信した旨が報告された。

2　AsCA 関係

AsCA 評議員の小松会計幹事より今後の会議予定（AsCA2022（済州島）, IUCr2023（メルボルン）, AsC2024（マレーシア））が示された。AsCA 2023（10/30 – 11/2, 2022）については 5 月から参加登録が始まる旨の報告がなされた。

3　日本学術会議関係

IUCr 分科会副委員長の井上評議員より、IUCr の分担金は学術会議から支払われていることが説明された。また、IUCr2023（メルボルン）に向けて、3 月末をめどとした Plenary Lectures, Keynote Lectures, Micro Symposium の提案が始まっており、4 月下旬に国際プログラム委員会（IPC）が開催される旨の説明があった。日本からは中川評議員、尾関評議員が IPC 委員として登録されており、両委員より、日本から PL および KN に３名の講演者の推薦をしていることが説明された。また、講演者については地域バランス、男女バランスをとるように求められている旨が説明された。

結晶分科会委員長の菅原評議員より、IYBSSD2022（持続可能な発展のための国際基礎科学年）についての報告があり、結晶学会も IYBSSD2022 の賛同学会となってほしいとの要望が出された。結晶学分科会がシンポジウムを開催する場合、結晶学会から財政支援を受けることが必要なことが説明され、具体案が決まった時点で評議員会の審議・承認を得ていくことが報告された。また、カーボンニュートラルに関する連絡会議・パンデミックと社会に関する連絡会議についての説明があった。さらに、学術会議として、ウクライナ問題に会長談話を出したこと、学術会議新規会員の任命問題について内閣総理大臣と面談し、今後も対話を続けていくこと、学術研究振興について今期はマスタープランを策定せず、別の形で学術研究の取りまとめが行われることが説明された。

4　若手会員割引について

小松会計幹事より、制度設立の経緯の説明と順調に制度が利用されている旨が報告された。3 月 24 日時点で若手割引制度を適用した会員は 12 名であることが報告された。

5　インボイス制度について

小松会計幹事より、インボイス制度導入について説明があり、課税事業者になるか免税事業者のままでいるかを 2023 年の 4 月の評議員会までに決定しなければならないことが説明された。しばらくは免税業者のままで今後情報を集めながら検討していくことが報告された。

6　ドライシッパーの運搬について

山本委員より、生物系の研究に用いられるドライシッパーの運搬拒否問題についての説明があり、適正な使用について再度周知があった。定期的なメール配信などで強調していく旨が説明された。

7　学会賞候補者推薦のお願い

禾庶務幹事より、2022 年度の西川賞、学術賞、進歩賞候補者について推薦の依頼があった。

審議事項

1.　2022-2023 年度幹事, 監査役の承認

別紙資料名簿記載の 2022-2023 年度幹事および監査役がその任に着くことが満場一致

で承認された。ただし、申し送り事項として、旧年度の執行部の者を新年度の監査役に選任することは慎重に行うほうが良いという意見が出た。本件については、次回以降、継続で議論することになった。

2. IYBSSD2022 の協賛機関になることについて

IYBSSD2022 の協賛機関になることが満場一致で承認された。禾庶務幹事が手続きを進めていくこととなった。

3. 会員異動

2021 年度第 3 回評議員会以降の新規入会者の紹介、入会申込書類の画面共有での閲覧があり、全員の入会が満場一致で承認された。

4. 共催・協賛・後援

共催等依頼について別紙記載の協賛 3 件及び後援 1 件（計 4 件）が満場一致で承認された。

5. 2021 年度決算

2021 年度決算が満場一致で承認された。

6. JAICI 賞について

禾庶務幹事から、化学情報協会（JAICI）賞の選考と授与の方法の変更案が説明され、変更案に従って進歩賞受賞者を JAICI 賞の候補者に推薦することが満場一致で承認された。

7. 次回評議員会日程

禾庶務幹事より 7 月第 1 週土曜日は大学院入試など重要なイベントがあることが多いので、事前に評議員会開催日のアンケートを取ったことが報告された。その結果を参考にして、次回（2022 年度第 2 回）評議員会の日程と会場について、下記の開催案が提案された。Zoom を利用したハイブリッド開催とし、集まることができる評議員・幹事は東京大学本郷キャンパス理学部化学本館に集まるという方針が説明された。幹事会は事前にオンラインで行う予定とし、後日、日程調整を行うことになった。

日時：2022 年 7 月 23 日（土）評議員会 14:00 – 17:00

場所：東京大学本郷キャンパス理学部化学本館講義室を拠点に Zoom によるハイブリッド開催　（幹事会はそれより一週間程度前にオンラインで行う予定。）

以上